

〔日本書紀二十〕元年四月甲戌皇太子達即天皇位

〔扶桑略記天智〕十年十月立大友太政大臣爲皇太子、十二月三日天皇崩、同月五日大友皇太子即

爲帝位十五年

〔水鏡天武〕天智天皇十二月うせさせ給ひにしかば、同五日大友皇子位をつぎ給ひて、わくると

しの五月に、なほこの御門をうたがひたてまつりて、出家してよし野の宮に入こもりせ給へ

りしを、左右の大臣もろともに、つは物をおこして、吉野の宮をかこみたてまつらむとはかり

し程に、此事もりきこえにき、

〔續日本紀光仁〕自勝寶以來、皇極無貳、人疑彼此、罪廢者多、天皇深顧橫禍、時或縱酒晦迹、以故免害

者數矣、又嘗龍潛之時、童謠曰、葛城寺乃前在也、豐浦寺乃西在也、於志止刀志止、櫻井爾白壁之豆、好

壁之豆也、於志止刀志止、然爲波國曾昌也、由流吾家曾昌也、由流於志止刀志止、于時井上内親王爲妃、識者

以爲、井則内親王之名、白壁爲天皇之諱、蓋天皇登極之徵也、實龜元年八月四日癸巳、高野天皇稱

崩、群臣受遺、即日立諱仁爲皇太子、略十月己丑朔、即天皇位於大極殿、改元寶龜

〔三代實錄光孝〕仁和三年八月廿六日丁卯、天皇聖體乖豫、是日立第七皇子諱多爲皇太子、略是

日巳二刻、天皇崩於仁壽殿、于時春秋五十八、

〔扶桑略記宇多〕仁和三年八月二十六日丁卯、踐祚、于時年二十一、二十八日己巳、太政大臣奉勅

令左大辨橘廣相、左中辨藤有穗、左近衛權中將時平、左衛門佐藤高經等侍殿上、十一月十七日丙

戌、即位、辰一剋、駕御鳳輦出東宮、南行幸八省、御小安殿、二剋、關白太政大臣參上、四剋、出大極殿、即于

帝位、

〔日本紀略五〕天曆四年七月廿三日戊子、於外祖父右大臣藤原第立爲皇太子、康保四年五月

廿五日癸丑、巳時、天皇冷泉崩於清涼殿、十四子刻奉璽劔於皇太子直曹襲芳舍、